

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103722
法人名	有限会社 アイファミリー
事業所名	グループホーム ファミリー
所在地	愛媛県松山市北梅本町甲3254
自己評価作成日	平成27年3月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>静かな住宅街や田畑が近辺に有るため、ゆっくりと散歩したり、リラックスした雰陰気で地域の方と交流できている。施設保有の畑で作られた無農薬野菜を中心にしたメニューづくりをして、食卓を飾っています。おせち料理、季節の料理やおやつなど職員の手作りで、季節感を大切にしたい食事は利用者やご家族様にも喜ばれています。野菜の下ごしらえには、職員と利用者一緒にするなど、家庭的な雰囲気施設の施設です。家族や友人もよく面会に来られ、運営推進会議やイベント時たくさん参加して下さいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>市民大清掃や年2～3回ある団地の掃除には職員が参加し、地域の方と一緒に活動している。町内会の三世交代旅行は、利用者と職員一名ずつで参加された。近くに畑を持つ元民生委員の方が野菜を届けてくれる。又、庭でお花を育てることに取り組むことで、散歩中の方等が声をかけてくれることも多くなっている。秋祭り時には、利用者全員が庭に出てみこしを見物して、子供達にお菓子を渡す等している。</p> <p>会議は、地域から民生委員1～2名がほぼ毎回参加している。警察の方には特に、毎回熱心に案内して、参加いただけるようになっていた。会議は、行事を併せて行ったり、土曜日に開催する等して、ご家族の会議参加につなげられるよう取り組み、現在は、平日に会議のみの開催で毎回、2～7家族の参加がある。会議は、「排泄ケア」「口腔ケア」等、毎回議題を決めて事業所の現状や取り組みを報告し、意見をうかがっている。「ファミリーでの食生活」について議題に挙げた際には、当日の昼食をご家族の方に食べてもらって意見をうかがった。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ファミリー

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 満田 貴子

評価完了日 27年 3月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 基本理念「無理をせず、あなたのやりたいことをしましょう、私達 がお手伝いしますから」をケアのポイントに置き、利用者この速 やかなケアが出来るよう、職員の話し合いをこまめにして、職員 間で確認し合い、実践している。	
			(外部評価) 開設時、職員が話し合い作成した理念を居間に掲示している。 理念を見直す機会を持つ度に「この理念がいい」という意見でま とまるようだ。職員から「理念を基に月目標を決めてはどうか」とい う提案があり、2・3月の目標は、統括部長が「自分でできること は、自分でしていただく」と決めていた。新年度からは、2ヶ月に1 回、職員で話し合っ目標を決めて取り組むことになっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域で行われている行事(夏祭りや秋祭りなど)等に積極的に参 加している。また、近所を散歩するときは、地域の方々と挨拶す るように心掛けしている。今年から、庭だけでなく、通りに面した 駐車場にも花々を植え、緑化においても地域とのつながりが増 すように花の手入れにも力を入れた。	
			(外部評価) 市民大清掃や年2～3回ある団地の掃除には職員が参加し、地 域の方と一緒に活動している。町内会の三世代交流旅行は、利 用者と職員一名ずつで参加された。近くに畑を持つ元民生委員 の方が野菜を届けてくれる。又、庭でお花を育てることに取り組 むことで、散歩中の方等が声をかけてくれることも多くなってい る。秋祭り時には、利用者全員が庭に出てみこしを見物して、子 供達にお菓子を渡す等している。	統括部長は、「学校が長期休暇中の児童クラブで利用 者が小学生に昔話をしたり、おはじき等、昔の遊びを教 えて、交流できるようにしたい」と考えている。又、管理者 は、近隣の方と「もっと親しく交流したい」と話しておられ た。事業所が持つ認知症の専門性等を活かして、地域 とつながりを持てるような取り組みに、工夫を重ねていか れてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) ここ数年は、地元の町内掃除や防災訓練も欠かさず参加してい る。おかげでいろいろところで声を掛けていただいている。会 議などの案内状も回覧板で回覧して下さるようになった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 昨年に引き続き、いろいろな方々が参加して下さっており、福祉関係の方なら知っていて当たり前な事項や今行っているケアの変更事なども速やかに報告したり、御意見を拝聴できる場になってきているのが、ありがたい。	
			(外部評価) 会議は、地域から民生委員1~2名がほぼ毎回参加している。警察の方には特に、毎回熱心に案内して、参加いただけるようになっていた。会議は、行事を併せて行ったり、土曜日に開催する等して、ご家族の会議参加につなげられるよう取組み、現在は、平日に会議のみの開催で毎回、2~7家族の参加がある。会議は、「排泄ケア」「口腔ケア」等、毎回議題を決めて事業所の現状や取組みを報告し、意見をうかがっている。「ファミリーでの食生活」について議題に挙げた際には、当日の昼食をご家族の方に試食してもらい、意見をうかがった。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターの担当者の方々は、利用者を含め、家族様との話し合いにも参加していただくこともあり、心強く感じている。介護保険課や福祉事務所の方とも疑問点があれば、相談させてもらっているので、不安な事項は少ない。	
			(外部評価) 運営推進会議時、「外部評価結果」と「新たな取組み」について報告した際に、市や地域包括支援センターの担当者から、「外部評価に対して、よく取り組んでいる」等の感想があった。季節の感染症や熱中症の予防対策についてアドバイスがある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議でも一年に一回は取り上げているが、まだまだ意見の違いは見られる。ただ施設の意見も含め、家族様も少しですが理解を下さり、身体拘束は格段に少なくなった。どうしても安全ベルトをしなければいけない方には、利用者も含めて、家族様との話し合いや月間記録も密にしている。	
			(外部評価) 昨年の外部評価結果を受けて、身体拘束を行っているケースについて、この一年間、拘束時や拘束解除時の状況を毎月記録することに取り組んでいる。その記録をもとにして、毎月ご家族と話し合い、さらにカンファレンスで支援のあり方を検討することを継続された。日中は玄関の施錠を止め、センサー音で戸の開閉が分かるようにして、見守りしている。又、ベッドからの転落の心配があるような場合は、畳に布団を敷いて対応している。ベッドからの立ち上がり時不安定な方には、センサーマットや人感センサーを使用している。今後も、利用者が安全で自由な暮らしを送れるように、理念にも照らし合わせながらケアや環境づくりに工夫を重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職場内外研修を含め、日頃の言葉掛けやコミュニケーションのとり方まで、勉強している。職員の精神的な介護ストレスが虐待に向かわないように、休憩時間の代用職員などを雇い入れ、気持ちの余裕が持てるように心掛けている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人がついている利用者がここ数年おられるため、管理者や職員は、理解して支援できている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所希望の見学のときから、双方の意見や話し合いを重ねるようにしている。具体例もあわせて説明しているため、不安や問題点が無いように理解して、契約していただけるよう心掛けている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営やケアの事項で変更事や御相談したい時など、運営推進会議で事細かな問題点なども話し合える場になっている。運営者の立場からはとてもありがたい場です。御意見は、毎月の職員勉強会にも反映させていただき、問題点があれば、職員一体となり取り組んでいる。最大18名の利用者なので、取り組みへのスピードも他の福祉施設より反映させやすい点がいいと思っている。 (外部評価) この一年間、特に、利用者やご家族の希望を採り入れた個別支援に取り組まれた。ご家族からは、リハビリの希望が多くあるため、「歩行練習」「足マッサージ」「歌と手の体操」又、「喫茶店に外出」等、個別のカレンダーを作り、支援内容を報告している。運営推進会議に参加したご家族から「支援内容が分かりやすく、ここまでしてもらっているという安心感がある」と感想があった。又、事業所の昼食を試食したご家族は、「味もしっかりしておいしかった」「衛生面もきれいで充分である」と感想を話された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 迅速に対応しなければいけない意見や提案は、毎朝の朝礼などで話し合うことが多い。また全職員にて取り組まないといけないようなときは、毎月の勉強会にて意見を聞き、話し合うことにしている。	
			(外部評価) 職員個々に年2回、外部研修に参加できるように取り組んでいる。研修受講後には報告書を作成して、他職員と情報共有し、時には、運営推進会議で発表することもある。「誤嚥性肺炎について」研修に参加した職員からの提案で、「舌ブラシ」を取り入れて、さらに口腔ケアに力を入れるようになった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員この実績や勤務状況などが優れた数名の職員には、給与アップをした。処遇改善などの加算も利用しているので、職員の給与水準も納得してもらっていると思う。休憩時間専門や食事作りの職員も新たに雇っているので、ゆとりをもって働いてもらっていると思う。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の職場外研修は、半数以上の職員が受けた。研修報告書の内容が優れている場合は、運営推進会議や毎月の勉強会で発表してもらったり、実際にケアの一部に取り入れたものもある。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者をはじめ、計画作成者や職員も小野地区のグループホームの集まりや医師会などの認知症に関する話し合いに勉強に行き、他施設との違いや現在の認知症医療等を知り、改善していつてもらっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用が始まる前から、本人や家族等からよく話を持つことに心掛けている。何回か面談させていただく中で、信頼関係が得られるようにも心掛けている。職員だけでなく、利用者同士でのより良いコミュニケーションが得られるようにも支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 人居希望の見学や面会時、また電話での問い合わせの際も、何を欲しているかや要望等を話から読み取り、丁寧に説明している。また、いつでも相談していただけるような信頼関係を築けるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 人居希望時から、話す機会をたくさん持ち、利用者の以前の生活、環境等を把握して、サービスに反映できるようにしている。また必要な支援が出た場合は、以前のかかりつけ医、以前のケアマネージャーなどにお聞きして、利用者や家族様と話し合い、迅速に対応するように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が自立した生活が送れるように職員と利用者が共に支えあえるような関係を築き、援助を行えるように心掛けている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 運営推進会議でも何回と無く家族様と利用者様との関係性と職員の役割を話し合うことがあった。ここ数年家族様の面会も増えてきており、家族様と利用者様との絆は、職員が常日頃から支援し、必要性を感じてもらっている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族以外にも元職場の方やお友達などが面会にこられる時は、職員もその方の名前や顔を覚え、次回からも気軽に面会してもらえるように心掛けている。また秋祭りや日頃の散髪などはいつもして頂く方に来ていただいたりして、馴染みの関係が続くように支援している。 (外部評価) 香川県出身の利用者と讃岐うどんを食べに出かけたり、利用者の希望で自宅周辺をドライブすることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 身体的な介護以外では、みな同じようなコミュニケーションを保てるようにして、疎外感や孤立感を生まないように気をつけている。上手にコミュニケーションがとれない利用者には、職員が間に入り、利用者同士の関わりがスムーズになるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などで退去後も、引き継がれたケアマネージャーや病院の生活相談員への支援をしたり、他の家族様に必要な場合は、包括支援センターを御紹介したりした。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 昨年までケアチームごとにケアカンファレンス等をしてケアをしていたが、今年はそれを広げて、1Fと2Fで職員をほぼ固定して勤務してもらい、階ごとのチームケアにした。固定された職員にしたおかげで、日常生活から本人の要望や意向を聞きやすい環境にしており、それらをカンファレンス等で取り上げて、ケアプランへとつなげている。 (外部評価) 日々の介護記録には、利用者の言葉も記録することに努めている。記録用紙のページの右半分は、職員の対応等を記入する欄を設けている。	利用者個々が、その人らしい暮らしを続けるために、利用者のこれまでの暮らし、現在のこと、これからの暮らし方の希望等、利用者から得た情報を蓄積していけるような様式に工夫されてはどうか。個々から得た情報を介護計画につなげていくような仕組みも作ってほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族や以前の担当ケアマネージャーなどから生活歴や趣味等をお聞きして、馴染みの生活が日々の生活の中で生かせるように心掛けている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者事に一日の生活(排便、バイタル等)を記録し、また介護ケア以外の個別支援も記録するようにした。個別支援の中で、日々の体調や心理変化を早期に見つけられるようになり、現状の把握とケアの改善に努められるようになった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	(自己評価) 朝礼を含め、小さなカンファレンスはほぼ毎週するようになった。 何が困っている点かを利用者、家族様以外にもかかりつけ医、 協力医、理学療法士や薬剤師とも相談するようにして、利用者が 本当に必要な介護計画を作るように努めている。 (外部評価) 介護計画は、「ご本人の困っていること」を中心に作成している。 月1回、職員で話し合いモニタリングを行い、3ヶ月毎に評価し見 直している。さらに、理念のもと、利用者ができること、やってみた いこと等にも目を向けて、利用者の意欲や自信につながるような 支援を実践できるよう、介護計画の作成に工夫を重ねていかれ てほしい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しな がら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月の介護計画をもとに、職員で重点的に実施する目標を立 て、実践している。個別記録は、ケース記録や個別支援記録に 記載している。ケアプランや実施目標等は、職員間でそれらを回 覧し、確認しあって、情報を共有している。改善点等も速やかに 提案しあえるようになった。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔 軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでい る	(自己評価) 本人や家族の柔軟な支援に対応するためにも、常日頃からのコ ミュニケーションや信頼関係の強化を重視している。家族が一番 希望される病院介助や外出もほとんど職員が行っている。またグ ループホームへの入所が難しい利用者様でも、家族の介護疲れ やDVが見られる場合は、一時的でも入所してもらったケースもあ る。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把 握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊 かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 秋祭りでは、たくさんの地域住民や子供さんがホームに来られ て、神輿や獅子舞を楽しむことが出来ている。また今年は、少 ども地域緑化になればと、利用者職員で花作りに勤しんだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 月に二回、各利用者のかかりつけ医が往診に来て下さっている。協力医が増え、医療や栄養などの相談事も相談しやすい関係を築けている。各利用者ごとに健康状態表を記録し、かかりつけ医や急変時の病院対応でも伝えやすくなっている。家族様からの御質問や不明点なども職員がかかりつけ医との間に入り、支援している。</p> <p>(外部評価) 24時間体制の在宅医等7カ所の協力医療機関があり、入居時にかかりつけ医を変更する場合は、ご本人やご家族が選べるようになっている。入居前からのかかりつけ医を継続して受診する利用者は、ご家族や職員が付き添い支援している。医療機関でのリハビリを希望する方には職員が同行している。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護師・准看護師免許を持った介護職員が、体調変化など気になった点を訪問看護に伝えて、協力医との連携体制を取り、往診や看護をしていただいている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 日頃から入院などが考えられる利用者には、迅速な入院や緊急搬送に備えて、かかりつけ医と情報交換している。また尿員の地域連携質には訪問したり、電話したりと関係作りに努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議でも年に一回は取り上げる議題です。日頃から家族様には終末期や重度化になった場合のことが気軽に話し合えるようにしています。また、かかりつけ医との指導の下、重度化した場合や終末期のあり方について、利用者、家族、施設職員一体になって、話し合いを重ねるようにしている。今年、看取り介護を2人行いました。</p> <p>(外部評価) 今年度は、12月と1月に看取りを支援した事例がある。かかりつけ医と訪問看護師、ご家族、日勤と、夜勤専門の職員が情報共有しながら支援できるよう詳細な引き継ぎや申し送りに努められた。2月の運営推進会議時、看取り支援の報告を行ない、ご家族から、「最期を看取っていただけると分り、安心した。」「いろいろ相談できる事もわかり、ホッとした。」等の感想があった。利用契約時には、事業所の「看取り介護について」に沿って説明し、ご家族の意向等を確認しているが、「まだ、そこまでは考えていない。」と言われることが多いようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故時の対応マニュアルを作成している。利用者の急変時に備えて、利用者情報のファイルをすぐ手にして対応出来るように目に付く場所に置いている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応マニュアルは、夜間用にも改めて作り、職員に周知しており、定期的に訓練を行っている。昨年に引き続き、今年も小野地区の防災訓練にも当施設の防火管理者が参加し、地域防災担当者との協力関係も取れている。消防署立会いの避難訓練では、夜間時の訓練を行なった。	
			(外部評価) 年2回、避難訓練を行っており、昨年10月には、消防署の協力のもと、夜間の火災を想定して実施している。夜勤専門職員は全員参加し、利用者が寝た状態の布団を引きずり、玄関前まで避難させる方法を体験された。消防署の方からは、「大声で近所に知らせて助けてもらう」「夜間は火を使わない」等のアドバイスがあった。水や食料品等を1週間分備蓄している。管理者は、地域の防災訓練に参加している。さらに、運営推進会議等を利用して、地域の方との相互協力体制作りをすすめていかれてほしい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 車椅子の利用者が多いので、リハビリ時などに体が動かしにくい利用者に対して、根気よく声掛けをしてご自身で出来るだけ動いていただけるように接している。	
			(外部評価) 利用者をご自分の力で出来るような支援に努めている。スプーンを持つことはできるが、口までは届かないような状態の利用者に、いろいろな種類のスプーンを試し、ご自分の力で食事ができるように支援している事例がある。管理者は、「ご自分で食べることで『おいしい』という言葉が出るようになり、言葉数や食欲、意欲が増している」ことを感じていた。利用者から「～しようか」と言ってくれるような場面作りも心がけている。調査訪問日の午後、週1回事業所へ移動パン屋が来ており、ご自分で選んで買ったパンをおやつに食べている利用者がおられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定が可能な利用者については、本人の思いや希望に沿ったケアをするよう心掛けている。また自己決定が難しい方も、生活の一部のケアを出来るだけ御自身でしていただける工夫を職員が考えて、サポートすることで本人の思いもふと出てくるようになった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 車椅子利用や要介護度が高い利用者様が多いので、リハビリやマッサージ など家族様希望の支援が優先される方が多い。日中ず～と歌を歌ったり する方や、呻吟する方に対しての苦情が多いので、そちらの問題を他 の利用者に分かっていたら一人ひとりの暮らしが気持ちよく過ご してもらえるように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 送迎つきの理容室や訪問散髪の理容室を使っています。長年 利用している理容室なので、理容員さんとおしゃべりも楽しみ にしておられます。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に野菜の下ごしらえや簡単な料理の準備を している。その中で昔利用者が作られていた地方の食事や食 材の利用方法などの話で盛り上がる時がある。身体が不自由な 方が多いため、食事の準備や下膳は3名ほどしか出来ないがそ の分、食事は出来るだけ自身で食べていただくような工夫をし ている。 (外部評価) 法人代表が自家菜園で作る野菜と、農家から購入する有機野菜を中心 にした献立を統括部長が立てて、職員が交代で調理している。夕食 は、調理専門職員が担当している。食事時、職員は利用者の中に入り、 食卓に上っている食材を話題にしながら会話したり、介助をしなが ら、同じものを食べていた。利用者は、野菜の下ごしらえやテーブル拭 き、お盆拭き等ができるよう場面作りをしている。年数回、仕出し弁当を 取ることもあり、ミキサー食の方には、まずは、目で楽しんでもらってか ら、食べやすいような形態にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の身体状況に応じた食事形態で食事を提供している。水 分量は、全利用者記録をし、摂取量を職員が把握できるようにし ている。食べる量などは各利用者の必要性や状態に日頃から気 をつけ、日々変わるときには速やかにその方にあった支援をして いる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) ケアは、利用者のほとんどが全介助。他の方は、見守りにて出来 ている。誤嚥性肺炎の講演にて口腔ケアの重要性を勉強したの で、舌のブラシも取り入れるようになり、口腔ケアには力を入れて いる。義歯の調整も積極的に受診していただけるように支援して いる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを知るために、排便記録表を付けている。利用者によっては、排尿量も常に計って、職員が排泄の状態を把握してもらっている。排泄時間や排泄状態を知ること、ポータブルなどを利用したりして、トイレでの排泄が出来るようになった利用者も数名いる。 (外部評価) 排便記録表を確認しながら、トイレの声かけや誘導を行っている。重度の利用者は、複数の職員で介助して、日中は全員の方がトイレで排泄できるよう支援している。入居時におむつを使用していた方もあったが、排便のパターンの把握に取り組み、トイレに座ってみることを継続して支援し、徐々にトイレで排便ができるようになったケースもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便記録表、服薬表、水分チェック表やその日のバイタル状態を毎朝の朝礼と夕方の申し送りにて、全職員にきちんと掴んでもらうようにしている。飲食物の工夫、散歩や運動は、職員が進んで行ってくれている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に合った職員が対応することで、リラックスして入浴してもらっている。お風呂が嫌いな利用者には、声掛けを工夫して、対応してもらっている。 (外部評価) 入浴は3日に1回を基本に支援している。浴槽にご自分で入ることが難しい方には、足浴とシャワー浴で対応している。好きなシャンプー等を使用する方や、洗髪は、2度洗うことが習慣の方にも、希望に応じて支援している。皮膚が乾燥する利用者が多いことから、最近ボディソープを固形石鹸に替えていた。利用者は、居室からご自分の洗面器とタオルを持って浴室に行き、足拭きマットも個々に準備して使用している。ご自分で着替えを準備する方もある。入浴を拒む利用者については、ご家族にご自宅での入浴の状況をたずねる等して言葉かけを工夫しながら支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本人の希望や様子に応じて、休息して頂いている。気持ちよく眠れるように、布団などに工夫をしたり、日中のリハビリやマッサージなどでリラックスできるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は、職員が見られるようにファイルにしている、変更時は申し送り時に伝え、職員に周知してもらっている。体調や症状の変化が見られた場合は、迅速に対応できるように協力医や薬剤師の戸連携を図っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 介護以外の個別の支援を記録したり、それらを使って職員と話し合い、家族や本人の希望に添える支援を行っている。1Fでは、歌を歌ったり、昔の話を聞いてあげると喜ばれる方が多い。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) リハビリ受診や病院受診がほぼ毎日あるため、個別にお連れして外食や喫茶店を楽しんでいただいている。支援表を作り、家族様にも外出やレクレーション・リハビリ状況が把握してもらえるようにしている。 (外部評価) 気候の良い時期は、事業所の周りを散歩したり、庭に出て花や畑を眺めて過ごす時間を持つよう支援している。重度の方も庭で外気にふれる機会を作ることに努めている。この1年間は、個別の外出支援に力を入れて取り組み、職員と1対1で喫茶店やお寿司やうどんを食べに出かけた。お正月に椿神社に初詣に出かけた方もある。日用品の買い物等も希望に沿って支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時にはご本人で支払っていただきますが、施設内では、事務所の金庫にて保管しています。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人が電話などを使いやすいように、声掛けなどをしていいる。希望時には、自由に電話を使ってもらっています。また手紙や荷物のやり取りもご本人にお任せしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 車椅子の方が多く、玄関やベランダには季節の花を植えたり、飾ったりして楽しんでもらっている。毎月、絵の得意な職員が率先して、利用者と一緒にリビングや廊下の絵を制作してくれます。</p> <p>(外部評価) 玄関前に、パンジー等が咲くプランターを並べ、玄関や居間には、職員が自宅から持参したボケの花やモクレン、雪柳、さくら、菜の花、椿等、又、事業所の庭の花々を飾っていた。居間には空気清浄機を設置している。壁面には折り紙で作ったお雛様や絵の作品が飾られていた。調査訪問日の昼食後は、居室で休む方やテレビを見てくつろぐ方が様子が見られた。2階ユニットの壁面には、童謡等の歌詞を大きく書いた紙が数枚貼ってあり、皆で歌ったりされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングやダイニングはもちろん、2階の利用者が1階で過ごしたりと自由にできるように、見守り・支援している。思い思いの場所で過ごしてもらうために、見守り重視の時も多い。不愉快な言動が有る場合は、職員が言葉掛にて利用者それぞれが快適に過ごせるように支援している。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 好きな物などや馴染みの物などを自由に飾っていただいている。家族と相談して、使い慣れたものを持ってきて居室で過ごされている方も居る。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドとロッカー、タンスを備え付けてある。椅子を持ち込み、テレビを見るとき座ったり、ご家族が来られた時にも使用している。亡き夫の写真を飾り、ご自分で仏壇にお水を供え、毎朝、般若心経を唱えている方もある。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 自立した生活を送ってもらえるよう、人感センサーなどを必要に応じて使っている。転倒リスクの高い方には、たんすやベッドを除いて、畳の上に布団を敷き、休んでいただいている。</p>	